

厚小だより

厚岸町立厚岸小学校 令和元年年 12月6日
厚岸町梅香2丁目3番地 52-3016
～学力・心力・体力のとれた子どもの育成～

【校訓】
強く 正しく 美しく

【教育目標】
○たくましい子 (体)
○自ら考える子 (知)
○心豊かな子 (徳)

特別版

生活リズムチェック週間です！

もうすぐ2学期も終わり、冬休みに突入します。長期の休みに入る前に、生活リズムをしっかりと整えておくことが大切です。そのため、冬休みを挟んだ前後に生活リズムのチェックを行いますので、ご家庭でのご協力をお願い致します。

今年度は、特に「読書」に力を入れて取り組んでいます。学校にも2学期から図書館司書の余西先生が来て下さったことにより、読書への関心が益々高まっています。学校の図書館は以前よりも利用する児童が増えていますが、学校にいる時間での読書はどうしても時間が限られてしまいます。読書量を増やすためには、やはり家庭での「読書習慣の定着」が大切です。長期休業中を利用し、「読書の時間の位置づけ」をしっかりと確立できるよう取り組んでいけると良いです。

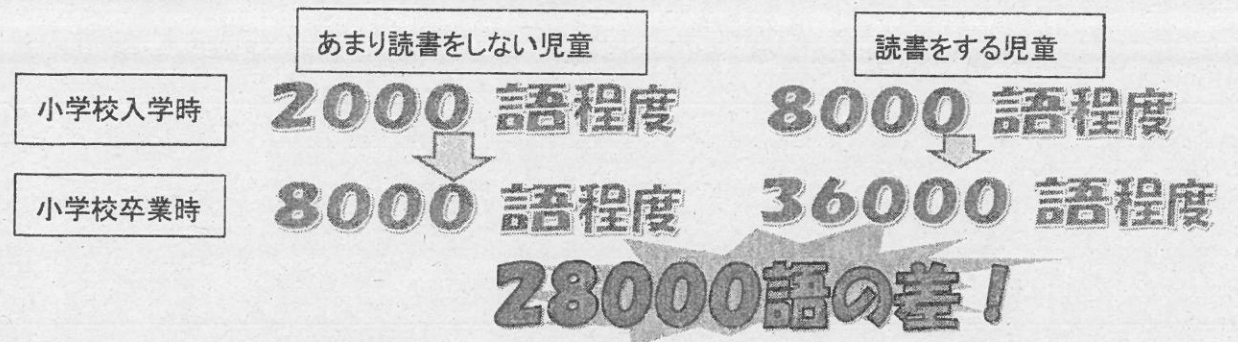
小学生は、勉強2時間より「勉強1時間と読書1時間」がベスト

『「本の読み方」で学力は決まる』(川島隆太・監修 松崎泰・榎浩平 著)によると、山形県の小・中学生を対象に行ったアンケート結果から、小学生のうちは、より多く勉強させるよりも、たくさん読書をして幅広い知識や視野を身に付けたり、豊かな感受性を養ったりした方が学力に結びつくといえるそうです。

さらに、若い年齢ほど、読書の効果は高いそうです。その理由として、人間の言語機能の発達のピークは8～10歳と言われており、読書を通して得られる言語機能の発達という側面から見た効果は、中学生よりも小学生の方が大きいと考えられるのだそうです。

によると、山形県の小・中学生を対象に行ったアンケート結果から、小学生のうちは、より多く勉強させるよりも、たくさん読書をして幅広い知識や視野を身に付けたり、豊かな感受性を養ったりした方が学力に結びつくといえるそうです。

～「ある語彙数調査」の結果より(昨年度も掲載しています)～



これは、本当に極端な場合だと思いますが、この「語彙数の差」が学習における「読解力の差」「表現力の差」に繋がっていく可能性があります。

学年が上がるにつれて下校時刻も遅くなりますし、家での学習すべき時間も増えます。また、人によっては習い事や少年団活動などもあり、「時間を生み出すこと」がどんどん難しくなってくるでしょう。だからこそ、比較的時間を生み出しやすい低学年の頃に「読書する習慣」を身につけておくことが、これからの更なる「学力の向上」に結び付いていくのではないかと思います。



下のグラフは夏休み明けの読書の結果です。目標値を15分以上に設定しているの、目標値を下回っている人数の多い低学年は絵本などの短い本だからという結果かもしれません。学校では2学期以降読書量が増えているので、今回はこの数値をかなり上回ってくれることを期待したいですね。

